

青森県立郷土館整備検討会議

(第5回)

【配布資料一覧】

資料 番号	資料名
1	第5回出席者名簿
2	第5回会議資料

(参考資料)

◇ 青森県立郷土館整備検討会議 意見票（事前照会）

青森県教育委員会

青森県立郷土館整備検討会議第 5 回出席者名簿

	氏 名	役 職
博物館	工藤 清泰	青森県立郷土館協議会 議長
	澁谷 悠子	高岡の森弘前藩歴史館 学芸員
	葉山 茂	国立大学法人弘前大学 人文社会科学部 教授
	半田 昌之	公益財団法人日本博物館協会 専務理事
観光・国際	高坂 幹	公立大学法人青森公立大学 理事長
社会教育	西川 智香子	元特定非営利活動法人コミュニサーあおもり 理事長
デジタル アート	佐々木 遊	asobis 代表
報道機関 メディア	小山田 文泰	青森放送株式会社 役員待遇報道局長
まちづくり	竹中 恵理	青森県青年国際交流機構 会長

(敬称略、順不同)

青森県立郷土館整備検討会議 第 5 回会議資料について

青森県教育庁文化財保護課

令和 8 年 1 月 1 3 日

目次

I. はじめに

II. 本検討会議について

III. これからの時代に求められる県立博物館について

1 新たな県立博物館のコンセプト

2 新たな県立博物館の役割

ア. 展示

① 自然との共生

② ふるさとのあゆみ

③ 変化に富む四季と、世界や日本で認められたお宝

イ. 教育普及

ウ. 収集・保存

エ. 調査・研究

3 期待する成果

IV. 新たな県立博物館の整備場所候補地について

その他. 青森県立郷土館（旧青森銀行本店）について

I. はじめに

本会議では、青森県教育委員会による県立郷土館整備に係る基本計画策定に向けて、県立の総合博物館が果たすべき、展示、教育普及、収集・保存及び調査・研究といった4つの役割や効果的な展示手法等とともに、整備場所候補地の基本的な考え方などに関する議論を行い、これからの時代に求められる県立博物館や新たな県立博物館の整備場所候補地について取りまとめました。

本検討会議での議論を踏まえ、新たな県立博物館が、地域の多様な主体との連携・協力により、多くの人でにぎわい、そして主体的に学び続けることができる場となることで、こどもたちを含む全世代が、ふるさと青森に愛着と誇りを持ちながら自身の未来を切り拓いていくことを期待するものです。

令和8年 月 日

青森県立郷土館整備検討会議

議長 工藤 清泰

II. 本検討会議について

本検討会議では、「青森県基本計画」をはじめ、「青森県教育施策の大綱」、「青森県教育振興基本計画」などの計画を踏まえた県立博物館の整備に向け、

1 これからの時代に求められる県立博物館について

2 新たな県立博物館の整備場所候補地について

を検討したものです。

【参考】青森県教育振興基本計画（2024～2028年度）関連部分抜粋

青森県教育振興基本計画（2024～2028年度）

青森県基本計画（行政運営の基本方針）

「2040年のめざす姿」

若者が、未来を自由に描き、実現できる社会

めざす姿の実現に向けて

青森県教育施策の大綱（教育分野における個別計画）

「青森県のめざす教育」

- ふるさと青森に愛着と誇りを持つ教育の充実
- 生涯学習・社会教育の充実

本県教育の更なる振興に向けて今後取り組むべき具体的な施策等を設定

アクションプラン（実施計画）

文化・スポーツの振興

施策 歴史・文化の価値や魅力に対する理解と活用の促進

県民、特にこどもたちがふるさと青森の歴史や自然、文化への理解を深め、郷土に誇りを持つことができる取組を推進

Ⅲ. これからの時代に求められる県立博物館について

1 新たな県立博物館のコンセプト

めざす姿 ふるさとをつなぎ未来をつくるミュージアム

ふるさと青森県の豊かな自然や歴史・文化を、資料を介して、人、地域、博物館や関係機関及び民間団体などの有機的な連携を図りながら継承することにより、人々の生活に豊かさをもたらすとともに、現代と未来を生きる世代に郷土への愛着と誇りを育む、県立博物館をめざします。

1 新たな県立博物館のコンセプト

見る・知る「静」と、体感する・活動する・発信する「動」の学びにより、自然・考古・歴史・民俗などへの関心を高め、青森県の特徴や価値・魅力への理解を深め、地域との連携等により宝物を守り、未来へ伝えます。

○ 見る・知る「静」

青森県の宝物の特徴や価値を、絵図・写真、解説、配置の工夫などで、見やすく、分かりやすく提供

○ 体感する・活動する・発信する「動」

青森県の宝物を、触れる展示やデジタル技術を活用した双方向性のある映像などを用いて五感で捉え、様々な世代、人々と広く共有

○ 守る・伝える

青森県の宝物を守り、調査・研究成果を様々な機会を捉え公開

1 新たな県立博物館のコンセプト

**見る・知る
「静」**

絵図・写真、解説、配置の工夫
などで、見やすく、わかりやすく提供

**郷土館が提供する
心躍る新たな学び**

**体感する・活動する
・発信する「動」**

触れる展示やデジタル技術を活用した
双方向性のある映像などを用いて五感
で捉え、様々な世代、人々と広く共有

守る・伝える 宝物を守り、調査・研究成果を公開

2 新たな県立博物館の役割

新たな県立博物館のコンセプトを踏まえ、4つの役割を整理しました。

展 示

変化に富む四季の中で育まれたあおもりの豊かさや、人（ヒト）・物（モノ）で本州北の玄関あおもりの今と昔を伝える。

また、青森県がもつ世界・日本で認められた祭り、大自然の恵み、歴史等を発信する。

収集・保存

先人の創意と工夫を知り、守り、受け継ぐ。

教育普及

学校、他の機関、地域等と連携して、青森県の自然・文化の特色や価値・魅力への理解を深め郷土への愛と誇りを育む。

調査・研究

青森県の過去のあゆみと現在の姿を調査・研究し、その成果を多くの人々とわかち合うことで、新しい未来を切り拓く。

2 新たな県立博物館の役割 ア. 展示

- 青森県の各地域には地形・気候による自然環境の特性があり、その特性を基に地域ごとの歴史が成立、多彩で豊かな文化が育まれてきた。この特性の異なる地域が融合して今の青森県がある。
- 青森県の豊かさは、歴史・文化を広い視野で総合的に捉え、背景となる自然環境との関わりを説明することで、より理解が深まる。
- このことから、新たな県立郷土館では、背景となる自然環境と歴史・文化を融合させた総合的な展示を

①自然との共生

②ふるさとのあゆみ

(近世「津軽領と南部領の成立」～現代)

③変化に富む四季と、世界や日本で認められたお宝

展示手法

- リアルとデジタルを融合
- 現地にいるようなライブ感・没入感を体感・体験
- ダイナミックな展示

として展開する。

2 新たな県立博物館の役割 ア. 展示

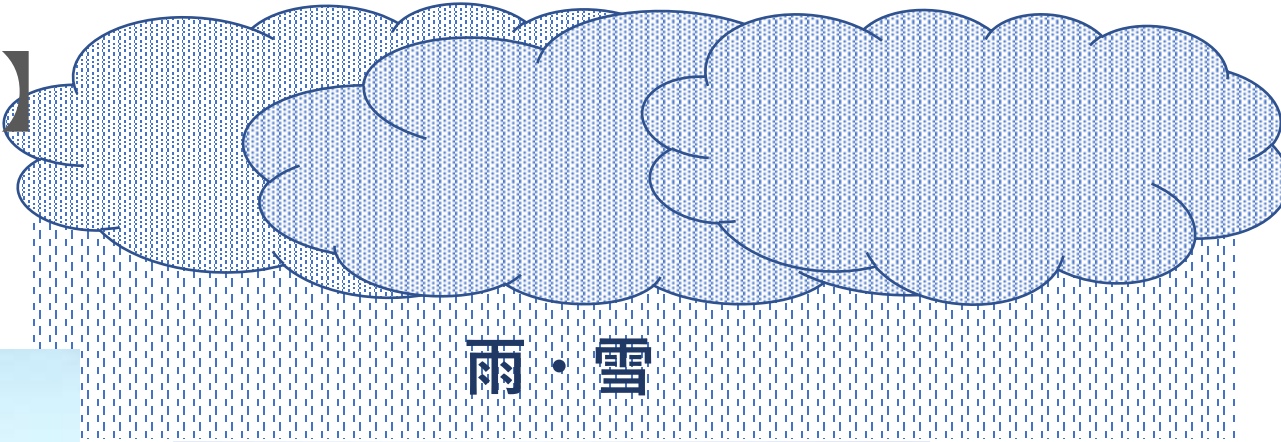
【① 自然との共生】

変化に富む四季の中で育まれたあおもりの豊かさを伝える

白神山地（世界遺産）、八甲田山（十和田八幡平国立公園）、津軽平野、上北平野、三方を囲む海と陸奥湾、本県を北限・南限とする生きものなどの**多様な自然環境**と、変化に富む季節の中で育まれた**祈りや祭り・食・生業**などのふるさとの豊かさを伝える。

2 新たな県立博物館の役割 ア. 展示

【① 自然との共生】



山

山岳信仰、山菜、林業
登山、温泉、紅葉

平地

水神様、虫送り
秋祭り、農業、畜産

海

天妃様・龍神様
漁業、養殖業

2 新たな県立博物館の役割 ア. 展示

【① 自然との共生】 (展示例)

山

岩木山 お山参詣



山菜、温泉、漆・津軽塗

平地

津軽平野 米・虫送り



桜、リンゴ、ねぶた・ねぶた

海

日本海 鹿島祭



スルメイカ、ハタハタ

2 新たな県立博物館の役割 ア. 展示

【② ふるさとのあゆみ】

人(ヒト)・物(モノ)で本州北の玄関あおもりの今と昔を伝える

アジア大陸の北東沿岸部や列島南北との交流、津軽と南部という自然、風土、歴史的背景が異なる地域を併せ持つあおまの暮らし、映像や写真、絵図、版画等先人たちの足跡などふるさとの歴史を伝える。

2 新たな県立博物館の役割 ア. 展示

【② ふるさとのあゆみ】

古代のあおり

弥生時代



カップ土器

古墳時代



蕨手刀

中世のあおり

鎌倉時代



青磁浮牡丹文香炉

鎌倉時代



板碑

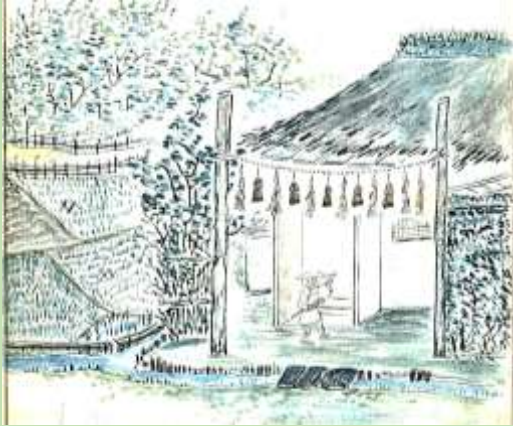
近世のあおり

近代のあおり
青森県の誕生

現代のあおり

2 新たな県立博物館の役割 ア. 展示

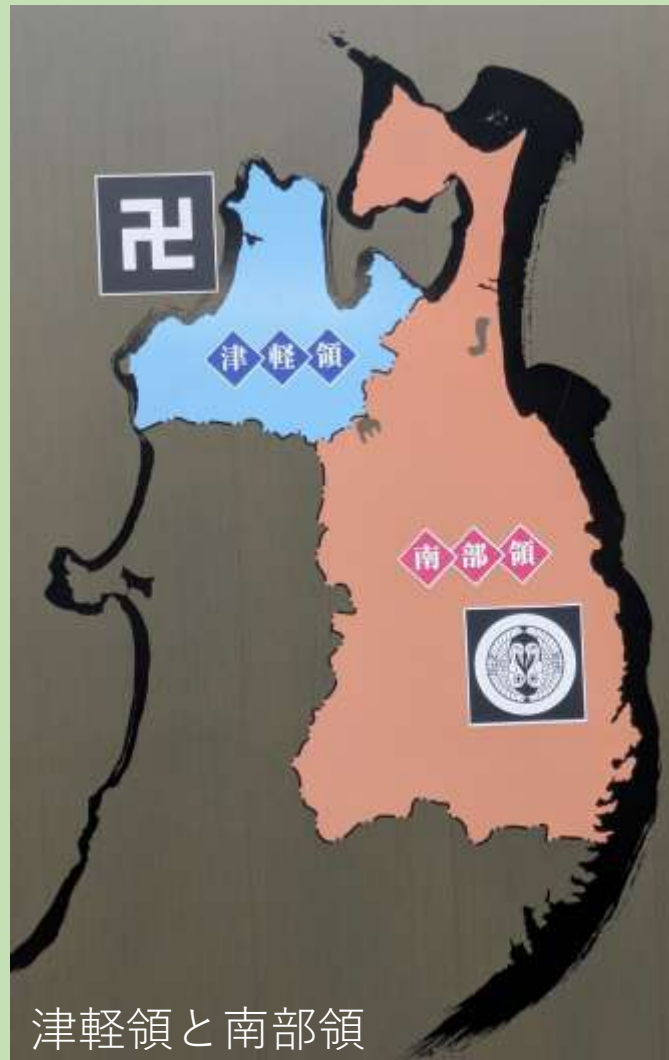
【② ふるさとのあゆみ】 近世のあおもり — 津軽領と南部領の成立 —



稲作（外浜奇勝）



こぎん



津軽領と南部領



馬産（絵馬）



菱刺し

2 新たな県立博物館の役割 ア. 展示

【② ふるさとのあゆみ】 近代・現代のあおりー青森県の誕生と発展ー

リンゴ栽培のはじまりと発展



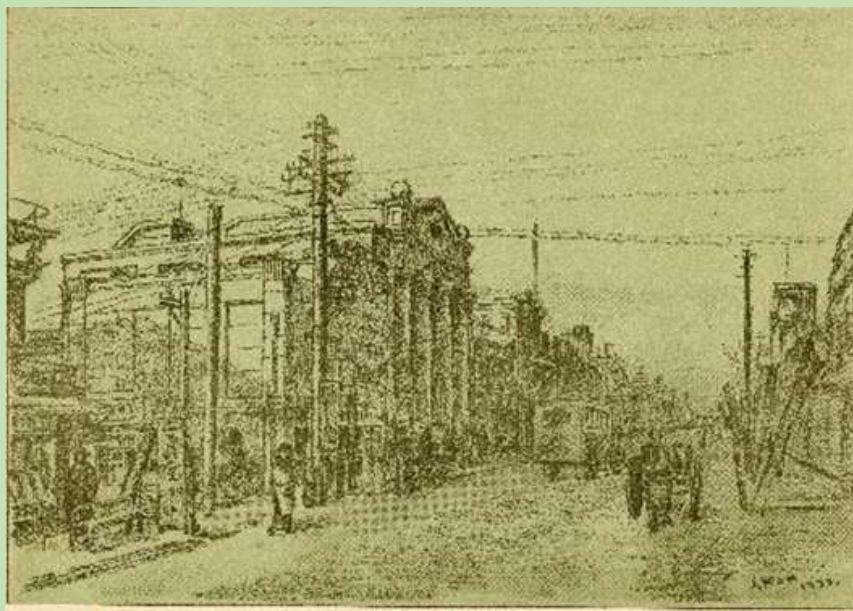
動力噴霧機

青森県の誕生



明治後期の青森県庁

描かれた青森県の風景とくらし



今純三「青森県画譜」八戸市三日町の風景

観光地の芽生え（十和田湖等）



十和田湖鳥瞰図

戦後の復興と生活様式変化



食卓の風景

青函トンネル、 新幹線開通と青森県



新幹線はやて
八戸開業日の様子

2 新たな県立博物館の役割 ア. 展示

【③ 変化に富む四季と、世界や日本で認められたお宝】

変化に富む四季と青森県がもつ世界・日本で認められた祭り、
大自然の恵み、歴史等を展示・発信

春(1期)

夏(2期)

秋(3期)

冬(4期)

メイン
展 示

現地にいるようなライブ感・没入感を体感・体験できる
ダイナミックな展示で、ふるさとの四季を伝える！

自然

雪解け、桜、菜の花、新緑、蕪島ウミネコ繁殖地・ツバキ自生北限地帯(天然記念物)

ブナの森(世界自然遺産「白神山地」)、仏宇多(仏ヶ浦：名勝及び天然記念物)、種差海岸(名勝)、釜臥山からの夜景「夜のアゲハ蝶」(世界夜景遺産)

紅葉(特別名勝・天然記念物「十和田湖及び奥入瀬溪流」)、法量のイチョウ・北金ヶ沢のイチョウ(天然記念物)

雪、樹氷、ハクチョウ(特別天然記念物「小湊のハクチョウ及びその渡来地」)

祭り

えんぶり(重要無形民俗文化財)

青森ねぶた・弘前ねぶた(重要無形民俗文化財)、五所川原立倭武多

八戸三社大祭の山車行事(ユネスコ無形文化遺産)

下北の能舞(重要無形民俗文化財)

サブ展示
慣習

観桜会と弘前城(史跡)、稲作と相内の虫送り(県無形民俗)

恐山参り、特色ある各地のお盆行事

山々への祈り(岩木山の登拝行事：重要無形民俗文化財)

津軽・南部のさしこ着物(重要有形民俗文化財)、スキー、スケート

食

ワラビ、ネマガリタケなどの山菜(瓶詰、缶詰)、カニ

ホタテ、ホヤ、嶽きみ、スイカ、メロン

リンゴ、米、キノコなどの山菜、漬物などの保存食

マグロ、タラ、ナマコ、ホッキ貝

2 新たな県立博物館の役割 イ. 教育普及

学校、他の機関、地域等と連携して、青森県の自然・文化の特色や価値・魅力への理解を深め郷土への愛と誇りを育む

1 出前授業の充実

- ・各学校からの要望で実施する出前授業に加えて、地域に焦点を当てた特別出前授業を実施する。

2 移動博物館の充実

- ・博物館等以外の施設や団体からの要望に応じ、その地域にゆかりのある資料を持参し、展示や学芸員によるギャラリートーク、ワークショップ等を行う。

2 新たな県立博物館の役割 イ. 教育普及

3 講師派遣、各種ワークショップ講座の充実

- ・学芸員が各機関や団体の要望に応じ、知りたいテーマについて分かりやすく紹介する講座の講師を務める。
- ・体験活動やものづくり等のワークショップについて、ボランティアなど県民の参画を得ながら、各世代が意欲的に参加可能な多彩なプログラムを実施する。

4 体験ルーム（仮称）の充実

- ・県民が個別に体験や学習メニューを選択し、触って遊んで体感しながら学ぶ「体験ルーム（仮称）」を設置する。

2 新たな県立博物館の役割 ウ. 収集・保存

先人の創意と工夫を知り、守り、受け継ぐ

1 ふるさとの自然と歴史から生まれた宝物の収集

- ・青森県の宝物とすべき資料を積極的に収集する。

2 適切な保存環境の整備

- ・収集した資料を適正に保存できる収蔵施設を整備するとともに、日常的な管理を徹底する。

3 宝物の保護

- ・共有された県内の重要資料の保護について、関係機関と連携して必要な助言・協力を行う。

2 新たな県立博物館の役割 エ. 調査・研究

青森県の過去のあゆみと現在の姿を調査・研究し、その成果を多くの人々とわかち合うことで、新しい未来を切り拓く

1 他機関と連携した調査研究の充実

- ・県内外の各大学や研究機関の研究者等と共同調査・研究を実施する。

2 研究成果の発信

- ・成果をまとめた論文や報告書を作成し、関係機関に頒布するとともにホームページで公開する。また、多様な広報媒体を活用し、国内外に発信する。

3 人材養成に係る研修の充実

- ・国や各研究機関が実施する研修に学芸員を派遣するとともに、研修内容を館内の学芸員と共有する。
- ・市町村博物館の学芸員に対する研修会を開催し、県内学芸員の専門知識・スキルの向上や共有化を図る。

3 期待する成果

新たな県立博物館の整備により次の成果が期待されます。

ア.展示

イ.教育普及

- こどもから大人まで楽しみながら青森県の価値を理解し、誇りに思う。
- 家族や友達同士、グループで体験・体感したくなる。
- みんなが青森県の魅力を伝えたくなる。
- 新たな県立博物館やその周辺がにぎわう。
- 県外の方もインバウンドの方も楽しめる。

ウ.収集・保存

エ.調査・研究

- 宝物を積極的に収集し、適正に保存される。
- 青森県の過去のあゆみと現在の姿が調査・研究される。

IV. 新たな県立博物館の整備場所候補地について

新たな県立博物館の役割を果たすため、整備場所候補地の基本的な考え方及び要素・条件について、次のとおり整理しました。

【整備場所候補地の基本的な考え方及び要素・条件】

1 洪水、土砂災害、津波等の災害リスクが低い場所

県民の財産である収蔵資料について、文化財保護の観点から災害リスクが低い場所に立地することが重要である。

2 “県民”が日常的に行きやすい場所

県立博物館は、県民にとって親しみやすく利用しやすい博物館となる必要があり、公共交通機関や道路等のアクセス・利便性を踏まえることが重要である。

3 “県外からの観光客”が訪れやすい場所

観光客の利用につなげるには、周遊しやすい場所にあり、誘客につながる取組を図りやすい場所にあることが重要である。

その他、青森県立郷土館（旧青森銀行本店）について

青森県立郷土館の一部建物である旧青森銀行本店部分は、平成16年3月4日に**国の登録有形文化財**とされました。

文化財登録制度とは

平成8年10月1日に施行された文化財保護法の一部を改正する法律によって導入されました。

【導入の趣旨】

近年の国土開発や都市計画の進展、生活様式の変化等により、社会的評価を受けるまもなく消滅の危機に晒されている多種多様かつ大量の近代等の文化財建造物を後世に幅広く継承していくために作られたものです。

届出制と指導・助言等を基本とする緩やかな保護措置を講じるもので、従来の指定制度（重要なものを厳選し、許可制等の強い規制と手厚い保護を行うもの）を補完するものです。

（文化庁ホームページから引用）

その他. 青森県立郷土館（旧青森銀行本店）について

青森県立郷土館（旧青森銀行本店）の概要

- | | | |
|---|------------|---------------------------|
| 1 | 登録年月日 | 平成16年3月4日 |
| 2 | 構造、形式及び大きさ | 鉄筋コンクリート造2階建て
建築面積750㎡ |
| 3 | 建築年代 | 昭和6年 |
| 4 | 登録基準 | 造形の規範となっているもの |
| 5 | 解説 | |



第五十九銀行青森支店として建設。鉄筋コンクリート造2階建ての銀行建築で、吹抜の営業室にはフラットスラブ風の柱頭を持つ8本の円柱を建て、ギャラリーを廻す。古典主義建築の骨格を保持しつつ細部装飾を省略したモダニズム建築の一例。設計は堀江幸治。

その他. 青森県立郷土館（旧青森銀行本店） について

県内の登録有形文化財（建造物）

名 称		名 称		名 称		名 称	
1	佐滝本店	16	旧第八師団長官舎（弘前市長公舎）	31	小野幸満家住宅土蔵	46	駒井宏家住宅土蔵
2	旧河内屋橋本合名会社	17	旧藤田家別邸洋館	32	森内レイ子家住宅土蔵	47	小野昭正家住宅土蔵
3	旧七戸郵便局	18	旧藤田家別邸和館	33	佐藤義秋家住宅土蔵	48	松田和雄家住宅土蔵
4	盛田牧場一号廬舎 （南部曲屋育成廬舎）	19	旧藤田家別邸倉庫（考古館）	34	佐藤聖徳家住宅土蔵	49	九戸家住宅主屋
5	盛田牧場二号廬舎（育成廬舎）	20	旧藤田家別邸冠木門及び両袖番屋	35	佐藤長臣家住宅土蔵	50	新むつ旅館本館
6	盛田牧場三号廬舎（繁殖廬舎）	21	旧弘前無尽社屋（三上ビル）	36	駒井忠雄家住宅土蔵	51	田中家住宅主屋
7	盛田牧場四号廬舎（繁殖廬舎）	22	旧高谷銀行本店（盛農薬商会倉庫）	37	百田昭逸家住宅土蔵	52	田中家住宅米蔵
8	盛田牧場五号廬舎（種牡馬廬舎）	23	更上閣主屋	38	小野智栄家住宅土蔵	53	田中家住宅門
9	盛田牧場馬頭観音堂奥殿	24	更上閣門	39	小野長道家住宅土蔵	54	成田和夫家住宅土蔵
10	盛田牧場馬頭観音堂拝殿	25	青森県立郷土館（旧青森銀行本店）	40	小野正博家住宅土蔵	55	佐藤幸正家住宅土蔵
11	盛田牧場馬頭観音堂鳥居	26	旧制弘前高等学校外国人教師館	41	小野郁男家住宅土蔵	56	小野良家住宅土蔵
12	佐滝文庫蔵	27	佐藤政衛家住宅土蔵	42	松田良昭家住宅土蔵	57	佐藤正道家住宅土蔵
13	佐滝土蔵	28	駒井正篤家住宅土蔵	43	小野秋穂家住宅土蔵	58	佐藤征栄家住宅土蔵
14	佐滝別邸	29	森内勇治家住宅土蔵	44	佐藤亮家住宅土蔵	59	駒井徹雄家住宅土蔵
15	佐滝門及び塀	30	駒井光芳家住宅土蔵	45	駒井武義家住宅土蔵	60	小野サツエ家住宅土蔵

その他. 青森県立郷土館（旧青森銀行本店） について

県内の登録有形文化財（建造物）

名 称		名 称		名 称		名 称	
61	小野きみゑ家住宅土蔵	76	旧島守発電所本館	91	翠明荘（旧高谷家別邸）門	106	最勝院庚申堂
62	佐藤良徳家住宅土蔵	77	旧島守発電所水槽	92	翠明荘（旧高谷家別邸）四阿	107	最勝院薬師堂
63	佐藤利衛家住宅土蔵	78	旧島守発電所水圧鉄管路	93	阿部家住宅主屋	108	最勝院五智如来堂
64	村井家住宅主屋	79	旧島守発電所余水路	94	阿部家住宅文庫蔵	109	最勝院如意輪観世音菩薩堂
65	駒井善重家住宅土蔵	80	八戸酒造店舗兼主屋	95	津軽鉄道旧芦野公園駅本屋	110	最勝院鐘楼
66	森内悦子家住宅土蔵	81	八戸酒造北蔵	96	弘前市庁舎本館	111	最勝院仁王門
67	松田陸三家住宅土蔵	82	八戸酒造文庫蔵	97	カトリック十和田教会		
68	松田圭司家住宅土蔵	83	八戸酒造西蔵	98	法光寺承陽塔		
69	佐藤竹悦家住宅土蔵	84	八戸酒造煉瓦蔵	99	ヤマニ仙遊館本館		
70	山田寛家住宅土蔵	85	八戸酒造煉瓦塀	100	ヤマニ仙遊館土蔵		
71	松田和雄家住宅文庫蔵	86	石場旅館	101	旧増川営林署庁舎（展示館しょうわ）		
72	坂本家住宅主屋	87	翠明荘（旧高谷家別邸）洋館	102	中舘家住宅主屋		
73	木村家住宅主屋	88	翠明荘（旧高谷家別邸）日本館	103	最勝院護摩堂		
74	旧西沢家住宅主屋	89	翠明荘（旧高谷家別邸）奥座敷	104	最勝院聖徳太子堂		
75	旧野村家住宅離れ	90	翠明荘（旧高谷家別邸）土蔵	105	最勝院文殊堂		

その他. 青森県立郷土館（旧青森銀行本店）について

当該建造物については、近代建築で造形の規範となっていることから、引き続き保存・継承していくことが重要です。

今後の保存・継承に当たっては、他の事例を参考に、検討を進めていくことが必要です。

青森県立郷土館整備検討会議

意見票（事前照会）

○ 資料中に「県立郷土館」、「県立博物館」という表現が混在しているので整理してほしい。

○ 教育施設としての博物館である以上、展示デザインは演出ではなく、「学習導線」として構築される必要があると考えている。

「見る・知る『静』」「体感する・活動する・発信する『動』」の方向性は良いと思う。

ただ、現段階では、展示手法が「デジタル」・「没入」・「ダイナミック」といった手段レベルで話し合われているため、これを「来館者が展示を見ることで何を考え、何を学び、何を持ち帰るのか」という来館者自身の視点での言葉に変換した上で、基本計画に盛り込んだ方が良いと思う。